新潟まち遺産の会報

みなとぴあに移築なった第四銀行住吉町支店の列柱をイメージしました

第21号
2017年1月

◇新潟まち遺産の会会報　第21号
2017年1月14日発行
◇新潟まち遺産の会（代表　大倉　宏）
〒951－8066
新潟市中央区東堀前通1番町353
E-mail：chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
TEL 025-228-2536 / FAX 025-228-2537
ブログ：machi-isan.blog.jp

花街の街並みの保全に向けて

第８回古町花街イベント

⁂ 旧花岡邸の公開と花街文化体験

2016年10月21日（金）～23日（日）、第８回柳都新潟・古町花街イベントを開催しました。

旧花岡邸の一般公開には３日間で延べ185名、三業会館稽古場での古町芸妓の舞踊鑑賞会（22日）には定員一杯の35名の参加者があり、どちらも大盛況でした。

旧花岡邸の一般公開では、来館者に古町花街の生活をより深く伝えることができ、併せて旧花岡邸での幅広い展示手法の検討もすることができました。

稽古場での古町芸妓の舞踊鑑賞会では、日本舞踊や純邦楽などの鑑賞、古町芸妓との会話、舞踊小道具の使い方体験などを通じて、参加者に花街文化を体験してもらう機会を作ることができました。（久保）

⁂ 花街の街並みと文化を継続するために

花街イベントも８回を数えます。始めたのは2009年で、湊町新潟を再発見するイベントとして、花街の建物に注目し、花街建築の研究者や歴史的建造物の研究者を京都から招き、古町花街の関係者などを交えたパネルディスカッションと、初めての花街まちあるきを行ないました。

翌年からは「第２回柳都新潟・古町花街イベント」と銘打ち、以後紆余曲折を経ながらも、第３回、４回と、ここまで続けてきました。

回数を重ねるうちに、内容も芸妓さんのお稽古見学や呈茶など拡がっていきました。

それだけではなく、行政にも働きかけた景観保全の取り組みなど、外側からは見えにくい活動も積み重ねています。

ご存じのとおり、「美や古」や「有明」の休業に見られるように、花街にはあいかわらず課題が山積しています。旦那衆のみが料亭に足を運び芸妓を呼んで遊ぶ場所という戦後の花街のあり方は最早成立しないでしょう。花街で育まれてきた文化は、これからは市民の財産として受け継いでいきたい。当会も建物や景観の保全の面から協力を続けたいと思います。（千早）

旧花岡邸２階座敷。店などの名前を入れた新旧の花街の地図を並べて、花街の変遷を分かりやすく示した展示が好評で、当時を知る人の記憶を呼び起こした。

福島県南会津町の前沢曲家集落。４頁参照。

◆◆◆ 坂とモダニズム建築を巡る ◆◆◆

□西大畑を半周

11 月 5 日（土）午後、西大畑のまちあるきを行ないました。いつもはお屋敷や登録有形文化財といったどちらかというと戦前の建物を巡るパターンが多い西大畑。今回はモダニズム建築といった戦後の歴史的建物を巡るまちあるきです。参加費は NSG 美術館の入場料 500 円を含む 1000 円。世話人以外は 2 名参加という少し寂しい参加者でしたが、逆に中身の濃いまちあるきとなりました。

カトリック教会前集合で、まずはカトリック教会を見学。その向かいにある星形の平面プランを持つマンション、スターハウスからモダニズム建築はスタートです。この建物、知る人ぞ知る貴重な共同住宅で、研究して HP 上にアップしている方もいるほどです。

次に、どっぺり坂界隈の 3 棟の共同住宅に注目。70 年代 80 年代の建築と思われ、その時代の空気というか建築デザインの変遷を垣間見ました。

続いて坂の上の砂丘館へ。今回は建物というより外周に建つ塀に注目。万年塀と呼ばれるプレキャストコンクリート板を使った塀は、実は一時期流行した塀だそうで、砂丘館の隣の敷地にも見ることができました。

會津通りから NSG 美術館へ。この建物は当会が保存運動に関わった旧會津八一記念館で、保存運動時とほぼ変わらぬ姿を見ることができます。保存運動が成功した数少ない事例です。

二葉町の住宅地に洋館付き住宅数軒を見ながら、町を見下ろせる坂を下りて新潟市美術館へ。前川國男最晩年の作品でモダニズム建築の真骨頂。今回は特に普段あまり注目しない外部空間に注目し見学しました。すばらしい外部空間なのに建物内部との関係性がとぎれていることが非常に残念だという意見が多かったです。

最後は、行形亭さんのカフェに希望者で寄り懇親を深めました。今回初試みのモダニズム建築を巡るまちあるきでしたが、モダニズム建築も立派な歴史的建物。時代が違う歴史的建物が混在することで歴史深いまちになる事も実感。

他地域にもまだまだモダニズム建築があります。そんな他地域へも巡り探訪したいと思わせる良い企画でした。（伊藤純一）

□ NSG 美術館について

秋晴れの気持ちのいい午後、砂丘館のあとに立ち寄ったのが、西海岸公園の松林の際に建つ NSG 美術館。この会報でもお伝えしたように、旧新潟市會津八一記念館が、当会も加わった保存運動を経て解体の方針が民間売却へ転換し、NSG グループが購入して新たな美術館となった建物です。

設計者長谷川洋一（1925-）は西大畑の生まれで、父は長谷川龍雄。みなとぴあ（市立博物館）敷地に「解体移築」され今はレストランになっている旧第四銀行住吉町支店や、今はない新潟市公会堂、旧第四銀行本店、槇尾に最近まで残されていた中野記念館などの設計を手がけた戦前の新潟で活躍した建築家です。

親子二代の建築家が住んだ洋館付き住宅が、カトリック教会の近くに最近までありましたが、この日はその跡地を見学することになりました。

洋一氏は現在新潟を離れているとのことで、保存運動の際も連絡はとれませんでした。父龍雄の設計になる建物が、長岡造形大学の平山育男氏の調査で多数明らかになっているのと対照的に、この NSG 美術館が知られている唯一の「設計作品」です。

41 年前（1975）の竣工。洋一 50 歳。建築家として脂ののった年齢の仕事です。いい建築だと改めて実感。スタイルは装飾を廃したモダニズムで、白い箱形の外壁が印象的ですが、よく見ると日本古代の高床式建物も連想させます。

開館まもない 77 年の會津八一記念館館報に設計意図が詳細に書かれていて、既存の樹木をできるだけ伐採せず、環境との調和に配慮したことが分かります。西日が差すと、エントランス前に立つ松の大木の影が白壁に映って墨絵の衣をまとった印象的な光景が出現します。

２階には新潟市出身の画家粛粲寶(しゅくさんぽう)の絵が常設展示されています。大らかな雰囲気の近代南画で、ゆったりした空間で絵が気持ち良さそうです。

會津記念館時代は 1 階の学芸員室だった場所が、今は新潟デザイン専門学校の学生の作品を紹介する展示室に、突き当たりの旧館長室が無料休憩室になりました。そこから裏庭を見ると、正面より数メートル低い窪地になっているのが分かります。複雑な敷地に建てられているのです。耐震補強も行なわれたといいますが、改変が目立たず、当初の姿に十分な配慮がなされ長谷川洋一の設計の全貌がよく見えるようになりました。建築の価値を尊重した NSG グループに感謝。

まだ宣伝不足で、訪れる人が少ないといいますが、たくさんの人にこの建築を見てほしいと思います。（大倉）

まちなみネットワークで金沢市長が講演

2016年5月28日（土）に、県内まちづくり団体で構成されている「新潟県まちなみネットワーク」の役員総会と、「にいがた美しいまちなみフォーラム2016」が、新潟市で開催されました。古町にほど近い新潟国際情報大学の講堂を会場に、基調講演「歴史的文化遺産を大切にしたまちづくり～金沢の手法～」（講師：山野之義金沢市長）と、パネルディスカッション「文化を活かしたまちづくり」（篠田昭新潟市長、市原富士夫文化庁文化財調査官、行形亭の行形和滋氏、いわむろ屋館長の小倉壮平氏）がありました。広く新潟県内から約210名の参加者がありました。

まちあるきを当会が担当しました。

□総会とフォーラム

総会では役員の交替が審議され、立ち上げから10年間会長をつとめられた村上の吉川信嗣さんが名誉会長となり、私が2代目の会長となりました。

まちなみネットの大会は、上中下越と佐渡の4地区で順に開かれます。今後、大会一巡ごとに、交替できるよう提案していきたいと思います。会長交替にともない幹事の変更もありました。

山野金沢市長の講演は聞き応えのあるものでした。昨年も川上光彦さん（金沢大学名誉教授）のお話を伺って感じた「射程の長い町づくりの結果が今の金沢」との感想を、行政の責任者の言葉から改めて実感しました。

富裕層を狙った広報戦略という話には、彼我の差を感じた新潟市民も多かったかもしれませんが、山野市長の話の要諦は、「市民が楽しむ町に他所の人が引かれてやってくるのが観光の基本」という考えだと思いました。

パネルディスカッションでの篠田新潟市長の、歴史では金沢にかなわないが新潟には食と酒とレストランバス（などの新しい文化）があるとの発言には、顔が赤らむ思いでした。

都市の魅力は重層的なものだという山野市長の言葉を借りれば、今ある歴史資産を、新しい文化やイベントと同様に大切にすることが、新潟の「住み心地」を豊かにすることであり、歴史という「地」に新しい文化が重なって町の魅力が深まる――観光もまたそれが基本だという話だったはず。金沢から新潟が学ぶべきことは、そこだと、篠田市長には気づいてほしかったのですが……。

古町花街は、まさに町民の町新潟の貴重な歴史資産です。それを長い射程で守っていく方策を、市民と行政がともに考えていくべき時です。金沢とも京都と違う「料亭中心の花柳界・花街」が、これほどそっくり残る新潟を、まず市民が誇りに思う町にしていきたいものです。（大倉）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

西大畑のまちあるきの写真

前頁は西大畑の坂道。細い坂道に沿って段々に住宅が建っている。
写真上は異人池のカトリック教会。背後にそびえるのが、星形のマンション、スターハウス。

□当会の企画でまちあるき

前日までの雨で空気は冷やされ、まさにまちあるき日和となった土曜日の昼前、明治期の風情を今に残す古町花街に百の人影が列をなしました。

今回、元小唄師匠の住居兼稽古場「旧花岡邸」と元置屋「川辰仲」を内部見学させていただきましたが、その数寄が凝らされた内部空間に参加者は皆惚れ惚れした様子でした。

花街という生きた文化が生み出す町並みに肌で触れた参加者は、その感触を忘れぬ間に「文化を活かしたまちづくり」のフォーラムに出席すべく花街をあとにしましたが、その人影のなかには、料亭街の絶品ランチに舌鼓を打つべく暖簾をくぐってゆく姿もありました。（久保）

□交流会

フォーラムの後は東堀通9番町の一〆さんで交流会を開催しました。上越・中越・下越・佐渡のフォーラム関係者が参加し、それぞれが行なっている歴史を活かしたまちづくりについて意見交換会を行ないました。また、当日は総会のため全国各地から新潟に来港していたNPO法人全国町並み保存連盟のメンバーも合流し、参加者が60名を超える賑やかな会となりました。芸妓さんの舞と日本料理を堪能できる古町花街らしい交流会でした。（松井）

❖❖ 全国町並みゼミ大内・前沢大会に参加 ❖❖

全国町並み保存連盟は、歴史ある町並みを活かしたまちづくりに取り組んでいる団体などで構成されるNPO 団体です。毎年各地で全国町並みゼミを開催し、全国から連盟加盟の団体が集い研究や交流を行ないます。ホールでの全体会のほか、周辺の歴史的景観を留める地区では分科会といって、ワークショップをはじめ多彩かつ専門的な活動をします。

地元で活動する方々の詳細なガイドで町並みを見学できるだけでなく、全国の方々と交流ができる貴重な機会です。

第 39 回全国町並みゼミ大内・前沢大会は、福島県南会津で開催されました。会場となった大内宿と前沢宿は、かや葺きの重要伝統的建造物群保存地区です。

‡ 報告 1

2016 年 9 月 9 日(金)から 11 日(日)までの三日間、第 39 回全国町並みゼミ大内・前沢大会に学生ボランティアとして参加してきました。

学生ボランティアとしては、一日目に行なわれた全国各地の町並み保全活動の報告、二日目に大内・前沢宿で五会場に分けて行なわれた分科会（パネルディスカッションやワークショップなど）の議事録作成、三日目の各分科会の報告会における発表を行ないました。

私は火災に対する地域防災をテーマとした分科会を担当しましたが、講演を聞き、議事録作成をすることで、歴史的町並みにおける防災の重要性を実感し、有効な防災設備やコミュニティづくりなどの知識を培うことができました。今後、この経験を新潟の町並み保全活動に活かしていきたいと思います。(久保)

前沢集落の曲家

□□□□□　編集後記　□□□□□

6 月 22 日、当会会員で、郷土の文化に親しむ会会長の小山芳寛さんが亡くなられました。日銀支店長宅、旧斎藤家別邸、旧會津八一記念館の保存運動などで尽力してくださいました。大きな力を失いました。ご冥福をお祈りします。(千早)

‡ 報告 2

9 日はホールでの全体会で、開会式、対談などのあと、「開催地報告・各地からの報告」で世話人の久保が当会の報告を行ないました。

報告団体が多くて一団体当たりの持ち時間が 4 分と短かいなかで、會津八一記念館の保存活動の顛末と、花街での活動について報告することができました。

他団体の報告では気がかりな報告もありました。神戸の繁華街で某企業に使われてきた旧三菱銀行の建物が売却され、外観など一部保存で高層マンションが建てられることになり、もう工事の準備が始まってるということでした。

もう一つ、松江から、明治初期築の元家老屋敷（現在は市の所有）を取り壊そうとしているという報告がありました。市の担当者が「重要文化財ではないから価値がない」と言ったそうです。新潟でもこうした発言は聞くことがあります。

保存を訴えている松江の会で岡山理科大学の専門家に調査を依頼したところ、登録有形文化財にする価値のある建物だし、将来重文になる可能性もあるという高い評価をもらったそうです。松江市は江戸時代の武家文化しか認めていないのかとちょっと驚きました。

今では観光地として有名な大内宿は、江戸時代初期会津西街道の宿場町として栄えましたが、街道の衰退と共にその賑わいを失ったという歴史があります。

かつての街道に沿った国道沿いには、トタン屋根をかぶせたかや葺きの建物が建ち並んでいました。地元の方の話では、蔵も多く残っているそうです。(千早)

◇◇◇ 熊本地震被災地からの報告 ◇◇◇

7 月 10 日（日)、NSG 美術館で当会の総会を開催しました。総会に合わせて企画した講演会は、当会世話人の長谷川順一が、熊本震災で被災した建物の現状報告を行ないました。

4 月 14 日と 16 日に立て続けに起きた地震は、益城町と西原村を中心に広範囲に大きな被害をもたらしました。歴史的建造物保存の立場から、被災した建物が必要以上に取り壊され、それと共に保存されていたモノや記録が破棄されがちな現状に警鐘を鳴らしつづけている長谷川は、いち早く被災地に入り、建物の被災状況などを調査しました。

講演会では被災地の様子と、被災した建物に対応する制度の概要紹介と限界、復旧のあるべき姿などが語られました。伝統木組み、通し貫、土壁を用いた伝統工法を用いた建物をどう修復し使いつづけることができるのか、課題が整理された講演でした。(千早)